

博物館だより

2012年 夏号

| 葛飾区郷土と天文の博物館 | Katsushika City Museum

No.

1 0 4

この夏も『スタプラ』がやってくる！

今年も、名物番組『クイズ！スター＆プラネット』の季節がやってきます。
「待ってました！」という方も「何それ？」という方も、
ここで改めて『スタプラ』ワールドをご紹介します。

夏の風物詩、そして超長寿番組

正式には「クイズ！スター＆プラネット」ですが、長い
ので略して『スタプラ』と呼ばれるようになりました。
スタプラは、座席の回答ボタンでクイズに答え
ながら展開する参加型のプラネタリウム。派手な
音や映像、ハイテンションなナレーション、成績に
よって変わる結末など、これまでのプラネタリウム
のイメージを覆した番組です。
スタプラは1994年の夏の番組として登場して
以来、圧倒的な支持をいただき、当館の夏の名物番組
として定着しました。「これを見ないと夏が始まら
ない！」とおっしゃる方もいるほどです。

注意！



スタプラは『普通のプラネタリウム番組』
ではありません。
静かでロマンチックな雰囲気ではないし、
眠れません。癒されません。星空案内は少し
だけです。目が回ったり、『寒く』感じるものが
あります。
まずは『普通のプラネタリウム』のイメージを
忘れてください。そうすれば、きっと楽しんで
いただけるでしょう。

ナビゲーターは、あの男

スタプラのナビゲーターと言えば、伊津野亮
(いづの・りょう)さん。テレビ『はなまる
マーケット』『ぶっすま』やbayfmなどで
活躍中です。
スタプラでは、1994年以来、ハイ
テンションなナレーションに
オヤジギャグを交えながら、
宇宙のさまざまな場所から
クイズを出題します。

Q 人類を月に送った宇宙船と言えば？

ただいまの集計結果

① アポロ



② サツポロ



③ マルコポーロ



① アポロ

② サツポロ

③ マルコポーロ

Q1 20
Q2 0
Q3 20
Q4 0
BONUS -20

クイズのルール

今年の『スタプラ2012』はその17作目。プラネ
タリウム界でも類を見ない超長寿番組です。

クイズの答え方は簡単。問題が出題されたら、座席
の右側にあるひじかけの3つのボタンの中から、正解
だと思ふボタンを押すだけ。

その問題で、正解を押した方が1番多かったら20
ポイントがゲット。正解よりも他の選択肢を押した
人が多かったらポイントはゲットできません。

そして、最終問題が終わった時点の総合ポイントが
60ポイント以上なら『ごほうび』、
そして60ポイント未満だと
『あのメロデー』とともに

に恐怖の『罰ゲーム』を
体験していただきます。

『ごほうび』『罰ゲーム』
の内容はヒミツ。知って
いる人は、決して他の人
に教えないように。



クイズ！スター＆プラネット
QUIZ! STARS & PLANETS

番組中のイベント

練習問題

まず最初に、クイズの答え方を確認する
ための『練習問題』が出題されます。問題は
簡単ですからご安心を。

今夜の星空解説

最初のステージに出かけるまでの間、短い
ですが、当日夜9時の星空の見どころを
生解説で紹介します。

ボーナスポイント／減点

出題されるクイズの中で1問だけ、正解
すると20ポイントのボーナスが出る問題が
あります。ただし、間違えると20ポイント
減点されてしまいます。

早押しクイズ

制限時間がとても短いクイズが次々と
出題されます。考えている余裕はほとんど
なく、反射的に回答しなければなりません。
早押しクイズが終わった頃には、頭の中が
真っ白になっているかも知れません。

最終問題(ファイナルクエスチョン)

観客の運命は、最後のステージで出される
最終問題の成績で大きく左右されます。
しかもこの最終問題、毎年かなり難しく、
この問題のせいで罰ゲームとなることも
少なくありません。

ボーナスクイズ

『ある条件』をクリアすると、『ボナ
スクイズ』を楽しむことができます。制限時間
は短めですが、問題は簡単です。

さあ、今年もチャレンジを

最新作『クイズ！スター＆プラ
ネット2012』は、7月21日(土)
から9月2日(日)まで放映。今年
も地球や宇宙、さまざまな場所を
旅しながら数々のクイズに挑戦
していただきます。

『あの男』とともに、あなたの
挑戦をお待ちしています。



QUIZ! STARS & PLANETS
クイズ！スター＆プラネット 2012

葛飾区80年 町・暮らしの移り変わり

葛飾区は昭和7年（1932）、それまでの東京府南葛飾郡下の七か町村がひとつになって誕生した自治体です。当時、まだ農村の景観が残っており、人口は84726人に過ぎませんでした。この企画展は、区制施行80周年という節目に当たって、都市近郊農村であった葛飾区が、どのように都市化してきたのかを振り返り、そのようすを物語る写真やゆかりの資料を紹介していくものです。

1 「やっから」から開発が始まった

昭和初期、葛飾区のあちこちに池や沼、湿地などの原野が残っていました。これらの場所は「やっから」と呼ばれ、かつては生活や生業の資源として利用されていましたが、時代の移り変わりのなかで、次第に利用されなくなり、工場などの用地として利用されるようになりました。葛飾区の都市化はこうした「やっから」から始まったのです。葛飾区の近代の変化のゼロポイントともいうべき「やっから」の環境とその利用のありかたを見て行きます。

2 葛飾区が誕生した

昭和7年、南葛飾郡水元村、金町、新宿町、亀青村、南綾瀬町、本田町、奥戸町が合併をし、「葛飾区」が誕生しました。当時の葛飾区の暮らしぶりを物語る写真や資料を紹介していきます。

農村の日常生活は江戸時代から伝わる社会組織によって支えられ、豊作を祈る祭りが行われていました。また優良な生鮮野菜が作られ東京都心部に出荷されていました。こうした農地にも昭和初期になると、開発しやすく東京都心に近いことから、大きな工場が建てられるようになりました。それらの工場で働く人たちが集まる町が金町、亀有、四ツ木など鉄道の駅の周辺に出来てきました。

3 ものつくりの時代

戦後、葛飾区には金属工業、玩具産業、鉛筆工場、繊維工場などが増えました。こうした工場は、大きな企業の下請けとしてその後の日本の高度経済成長を支え、日本の復興の礎となりました。葛飾区のものづくりの代表的な分野であるセルロイド工業や玩具工業などを中心に紹介していきます。

4 楽しく、賑やかだった商店街

昭和30年代から40年代にかけて、亀有・金町・立石・四ツ木・新小岩などの商店街は買い物や娯楽のために集まる人たちで大いに賑わいました。人であふれ、活気に満ちていた商店街のようすを当時のチラシを通じて見ていきます。

5 変わる暮らし

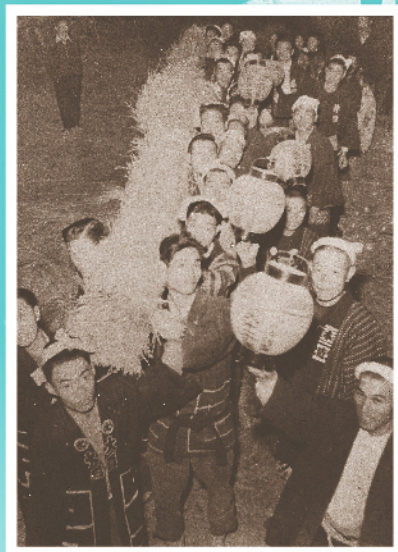
昭和30年代から50年代にかけては電化製品が、昭和60年代から平成にかけてはコンピュータが家庭の中に入り暮らしを変えてきました。むかしの扇風機、冷蔵庫、ワンプロなど暮らしを変えた電化製品を紹介しながら当時の世相を振り返ります。

会 期

平成24年
7月28日(土) ▶ 9月9日(日)

会 場

葛飾区郷土と天文の博物館
特別企画展示室ほか



昭和20年代 奥戸天祖神社大しめ縄神事



昭和22年9月 カスリン台風
立石駅前付近



昭和27年
新四ツ木橋渡り初め



昭和24年 金町駅



昭和50年代 新宿交通公園付近



昭和28年頃 新小岩駅北口



昭和7年10月1日 葛飾区誕生の祝賀風景



昭和40年代 西新小岩



昭和11年1月撮影 四つ木青物市場
撮影者：座間 銀蔵氏

葛飾区郷土と天文の博物館ご利用案内

開館時間	午前9時～午後5時 (金・土曜日は午後9時まで開館。ただし金・土曜日が祝日の場合、午後5時に閉館。入館は閉館の30分前まで)
休館日	月曜日、第2・4火曜日 (月曜祝日は開館。火曜祝日は開館し翌日休館)
入館料	大人 100円 小・中学生 50円 小学生未満無料 (毎週土曜日は中学生以下無料。20人以上の団体は2割引)
プラネタリウム観覧料	大人 350円 小・中学生 100円 小学生未満 50円 (毎週土曜日は中学生以下無料。20人以上の団体は2割引)
年間パスポート	大人 2000円 中学生以下 700円 購入から1年間、入館とプラネタリウムが見放題になる大変お得なパスポートです。購入時にご希望があれば、当館からのおたよりを1年間お送りします。

博物館だより

発行	葛飾区郷土と天文の博物館 〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1 電話：03-3838-1101 FAX：03-5680-0849 Web：http://www.museum.city.katsushika.lg.jp/
----	--